

# 令和3年度 大阪市立中学校教育研究会特別支援教育部

## 研究主題

子どもたち一人一人が、共に学びに向かい 生きる力を育む教育をめざして

## 趣旨

令和3(2021)年度は中学校で新学習指導要領が実施されます。今回の改訂において、インクルーシブ教育システムの構築、多様な学びの場、合理的配慮の考え方、すべての学校で特別支援教育を推進するということが示されています。そして「何のために学ぶのか」を共有しながら「何ができるようになるか」を明確にするために、①知識及び技能②思考力、判断力、表現力等③学びに向かう力、人間性等の三つの柱で再整理されています。中でも「学びに向かう力・人間性等」の涵養(水が自然に染み込むように、無理をしないでゆっくりと養い育てるこ)は私たちが特別支援教育において目指してきたことでもあります。子どもたちが周りの温かいまなざしのと認められ、「自己有用感」つまり、「自分が役に立っている、認められている、必要とされているという感覚」を育てることで社会参加の基礎としての「生きる力」を育成することにつなげることが望まれています。

これまで大阪市においては障がいのある子どもの人権尊重を図り、地域で「共に学び、共に育ち、共に生きる」ことを基本とした教育を推進してきました。学校が学びの拠点として、特別な教育的ニーズのある子どもと周りの子どもが相互に交流し学習を深めていき、人権教育の取組を通じて「障がい理解」を推進し、研究部としても特別支援教育を全校的な課題として職員全体で取り組んでいけるように教育実践・研究と発信をより一層進めたいと思います。

# 令和3年度大阪市立中学校教育研究発表会

特別支援教育部

日時：令和3年10月13日（水）

場所：大阪市立都島中学校より市内各校へTeams配信

講師：大阪医科大学病院小児科医師 金 泰子 先生

演題：『思春期の子どもの心のケア

一発達障がいのある子が悩むこと』

## 概要

発達障がいについて知っていてほしいこととして、障がいの説明、感覚異常、薬物療法、合理的配慮についてお話をあり、発達障がいと二次障がいについて、医療機関でできること、求められることについて説明していただいた。また、コロナ感染拡大による生活環境の変化から起立性調節障がい(OD)の発症が増えているとの情報提供をいただいた。最後に実際の外来においての具体的な事例を紹介していただいた。

## 研究協議

Teamsで講演を配信することになり、接続トラブルを想定して当日の研究協議、質疑応答を設定しなかった。また当日接続できなかつた学校(12校)に対して、録画放映を期間を限定して実施することができた。